

令和5年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490700067	事業の開始年月日	平成21年6月1日
		指定年月日	平成21年6月1日
法人名	大信産業株式会社		
事業所名	グループホーム みのり 丸ちゃん・山ちゃん		
所在地	(〒235-0011) 横浜市磯子区丸山1丁目16-5		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和6年3月1日	評価結果 市町村受理日	令和6年6月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・グループホームは「おいしく食べて心も体も健康に」を開設当初から柱として、新鮮でおいしい食事を提供できる様にと毎日取り組んでいます。</p> <p>・季節の行事、誕生会、ドライブ等を行い、単調な生活にならない様に、スタッフ同士で企画を立てて実行しています。</p> <p>・医療機関と連携し、24時間体制で体調変化の早期発見に留意し、すみやかな対応を心がけ、重度化を防いでいます。また、住み慣れたグループホームで最期を過ごしたいと希望なされた方には、十分な話し合いをもち、医師、訪問看護師のもとで看取り介護を支援しています。</p> <p>・ご利用者様の尊厳を第一に考え、それぞれの思いに寄り添い、個性を大切にされた支援を心がけ、実践しています。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和6年3月26日	評価機関 評価決定日	令和6年6月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 当事業所は、JR京浜東北根岸線磯子駅からバスで10分、または横浜市営地下鉄ブルーライン吉野町駅からバスで5分、最寄りの天神橋バス停から徒歩5分の住宅地に位置している。軽量鉄骨造り3階建ての1階は同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所で、2、3階部分に1ユニットごとのグループホームになっている。道路を挟んで向かいにはスーパーマーケットがあり、利用者は職員の支援を受けながら買い物を楽しんでいる。</p> <p>【医食同源】を基本にした支援】 開設時から「食」を大切にして、新鮮な旬の食材を使った毎日の食事や、季節の行事食、誕生日には利用者のリクエストに応じた食事を提供して利用者に喜ばれている。時には、利用者主体で献立を決め、調理をするお料理レクを楽しんでいる。調理には縁がなかった男性利用者が、ハンバーグをこねたり、餃子の具を包んでいる写真を見た家族から、驚きの声が届いている。グループホームと小規模多機能型居宅介護事業所の食事作りを担う調理担当の5人の職員が腕を振るうおせち料理、雛祭りやお花見などのイベント食等々、バラエティー豊かな「食」が、利用者一番の楽しみになっている。</p> <p>【利用者の個性やこだわりを大切にした支援】 利用者のこだわりをその方の個性として捉え、プライバシーに配慮をしつつ、常に利用者の気持ちに寄り添った支援をしている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみのり丸ちゃん山ちゃん
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

事業所名	グループホームみのり丸ちゃん・山ちゃん
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフと考え理念を作成「穏やかな環境の中で一人ひとりに寄り添い、思いやりをもって、お互いに助け合う」をスタッフで共有し、職員間の連携をはかり、ご利用者様の個性を尊重し、ケアに繋げています。	法人の行動指針を基に、今年度各ユニットで理念を作成している。理念の作成に当たり、管理者は「あなたや家族が認知症になった時にここに入りたいか、どんな言葉をかけてもらいたいか」と職員に聞いている。また正社員とパート職員の区別はしない、向き不向きもある、要領の良い悪いもあるが、職員各々の良いところを皆に伝え、当事者には、弱点を確認してステップアップしていこうと伝えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルスの感染も少し落ち着き、町内の行事などに参加している。	町内会に加入をして地域行事に参加をし、地域の方と交流をしている。今年度は地域行事も再開して、町内会の餅つきにお餅が食べられる利用者が参加した。町内会で行う盆踊にも久しぶりに出かけている。その際には町内会の方が、利用者のために席を用意してくれている。また町内の祭りの神輿は、1年おきに事業所に立ち寄ってくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで認知症の方の生活の状況や認知症が進行していく中で、ケアの方法などを情報交換している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	季節ごとの活動報告や、利用者様のケアについて等、アドバイスを頂いている。	運営推進会議は、奇数月の木曜日に設定して開催している。参加者は町内会副会長、民生委員、地域包括支援センター職員、管理者、ケアマネジャー、小規模多機能型居宅介護支援事業所管理者である。参加者からの地域の情報や、地域包括からケアプラザの催し物等の情報提供がある。事業所から部屋の空き情報などを伝えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	折に触れ、電話連絡等で、地域全体の状況や近隣の町内会の情報等を伺って、ご指導を頂いています。空室状況を共有し、新入居に繋がっています。	生活保護費を受給している方の入居に当たり、区の生活支援課職員と連携を取り支援している。今年度は、入居時に事業所に持ち込めない利用者の持ち物を処分して福祉用具の購入に充てる相談をし、その方が使う車いすの購入を支援した。コロナ禍前は地域ケア会議に参加をして協力をしていました。今後も要請があった際は、参加の意向はある。グループホーム連絡会への参加が中断しているが、新年度から情報収集を兼ねて参加を予定している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないと決められていますが、認知症の進行でやむを得ず、検討しなければならない時は身体拘束（施錠、サイドレール）の説明と同意を家族からいただき、必要な時、必要でない時を判断し、対応できる様にミーティングで話している。	身体拘束は虐待に通じるとして、身体拘束廃止委員会は、虐待防止委員会と3か月に1回同時開催している。睡眠導入剤を使うことで気持ちが落ち着く方には、こだわりの強い性格を考慮して、使わないとかえって混乱する懸念がある事から無理に使わないという選択はしていない。研修は不適切ケアのチェックリストを使い、各自セルフチェックをしてケアの確認をしている。事業所内は2階と3階は自由に行き来できるようにしている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは何か、日々の言動が虐待につながるようにスタッフ同士で話し合う様にしている。	何事にも、自分を最優先して欲しい利用者が、ほかの利用者が歌っている時に邪魔をする等、行動を妨げるような行為をした事例がある。そのような時には、管理者が対峙してその場を収めており、その際は利用者の心にたまっている思いを引き出す事を重視している。職員には、「利用者に対して、どのようなこともあきらめない、憎まない、苦手意識を持たない」と伝えていいる。利用者からのハラスメントも職員のストレスの原因になるため、管理者は出来るだけ職員と話をする機会を作り、気分転換してもらうように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している方がいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書を声に出して読みながら、一つ一つ説明し、納得いただいています。契約締結後も家族にホームでの様子を伝えて、話しやすい関係が出来るように努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望は、管理者、ケアマネージャー、各フロアリーダーが家族に連絡し、情報交換や意見、要望を聞き入れている。そこで得た情報は、各フロアに適切に伝達している。	家族の意見は面会時に聞くことが多いが、個別の話がほとんどで、特に運営に関する意見は出ていない。次年度の4月からは、新型コロナウイルスの影響で中断していた外出レクの行事を、家族同士が交流できるように家族も招待して行う予定にしている。4半期または半期毎に事業所内に掲示している写真を請求書に同封して送っている。またホームページのブログにタイムリーな話題を掲載し、家族からは喜びの声が届いている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送りや業務の合間で意見、情報の交換を行い、月に1回、フロアミーティングで議題に挙げてみんなでご検討します。	管理者は、人事考課を兼ねた個人面談を年2回行っている他、普段から出来るだけ職員と話をしている。職員からは掃除機の買い増しなど、物品購入の希望や、床掃除の業者委託、理美容に関する希望が出ている。ケアカンファレンスを兼ねたフロアミーティングや、申し送り等で意見交換をする時などは活発に意見が出ている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場を目指しています。努力や実績が給与、役職等に反映出来るようにしています。	年2回、人事考課を兼ねた個人面談を行い、管理者が査定をして、法人が昇給を決定してる。職員休憩室はないが、事務所や脱衣場を利用して休憩時間を取っている。職員の昼食代を安価にしていることも福利厚生に該当する。育児休暇や介護休暇等の他、正社員にはフレッシュ休暇が付与される。勤務年数に応じた特別休暇制度を導入している。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりと向き合う時間をとり意見を聞き、働きやすい環境にしてスキルアップのための研修を実施している。	法人のキャリアパス制度があり、資格取得の支援をしている。外部研修の受講には交通費の支給、ケアマネジャーの更新研修や認知症介護実践者研修、リーダー研修については受講料を補助し、研修参加は勤務扱いとしている。介護福祉士資格の保有率も高く、勤務年数も長いベテラン職員が多い。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナウィルスの流行もあり社内の勉強会はしているが外部との交流はない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく生活する場所が安心できることだと思っただけの様子、声掛けを多くし、お話をじっくりと伺い、不安な要素を取り除く様子をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が納得して入居を決められる様に、迷っている事や、不安な事が解消されるように、話し合いの機会を設けたり電話で連絡を取り合ったりして信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活状況を伺い、何が必要とされているか見極め、情報収集に努め、ケアの方針を決めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの能力に応じて、出来る事を大切にし、ご利用者様と職員が共に支えあう関係が築けるようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の希望、要望を伺ったうえで、ご利用者様とご家族様のいっとながりが保てる様に、季節の行事、運営推進会議等へ参加いただき、ご家族様と職員が協力してご利用者様を支えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの流行により、面会が出来なかった時期があるが、電話等でやりとりが出来るようにしていた。コロナの流行が落ち着いたころには面会を再開している。	併設の小規模多機能型居宅介護事業所から入居した方は、小規模多機能型居宅介護事業所の職員と馴染みの関係になっていて、一緒に撮った写真を居室に飾っている。毎日、自分で口紅をひいたり眉を書いたりする方、文字を書く事が好きな方がいる。また、入居前からの馴染みの美容師が訪問している方等々、入居歴の長い方は、ホームでの生活習慣ができているため、職員はその方の生活のこだわりに配慮した支援を心掛けている。家事ができる方には、職員と一緒に包丁で汁物の具を切ってもらうこともある。行事の時にはノンアルコールビールを提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で役割分担を決めたり、時には一つの事にみんなでかかわりあったりしながら、よりよい関係性を築くようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方、他施設へ移られた方のその後の様子をご家族から知らせて頂いたり、移られた入院先や施設との情報交換も行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様の思いや意向を伺い、出来る限りこれにそえるように努め、介護計画書に記載、全職員が把握できるようにしている。また、思いや意向の表明が困難な場合は、日常の様子やこれまでの言動等から推察し、思いや意向をくみ取って検討、把握を行っています。	毎日、誰が夜勤なのかを気にかけている利用者に、職員がその方専用で作成した夜勤者の予定表を居室に貼り、利用者が落ち着けるように対策をしている。終末期の方には、居室に音楽を流し、声を掛けている。気分のよさそうな時には、孤独感を感じないようにリビングで過ごしてもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人がいる時いつでも手に取れる様、スタッフルームに保管し、全職員がご利用者様の生活歴、生活環境を把握し、日々のケアに活かし、それぞれの個性に合った対応を行い、尊厳を大切にされたケアに繋がっています。特に新入居時には、これまでの暮らしを把握する事により、ご利用者様が新しい環境に慣れる一助となる様に努め、会話を楽しむ糸口としても大切にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送り、申し送り帳、ミーティング等で、一日の様子、ADL、新しい発見、利用者様のさりげない言葉を、記録に残し職員全員が共有・把握できるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族の思いや意向を伺い、現状に即した暮らし、ケアの方向を把握し、医療職等の見解を取り入れ介護計画を作成し、日々個人記録に載せ、ケアに反映させるようにし、モニタリングは3か月/1回を基本として行っています。	初回の介護計画は1か月様子を見ながら、その後は3か月毎にモニタリングをして見直しをしている。通常は短期目標3か月、長期目標6か月にしているが、変化があった場合は随時見直し、朝夕の申し送りや、隙間時間に、ケアカンファレンスをしてケアの共有を図っている。日常の様子等に変化があった際は、ケース記録以外に「モニタリング記録表」に詳細に記録をし、職員間で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画が分かりやすく記載された個別記録に、日々の様子や行ったケアの実践・結果等を記入し、職員間の情報共有を行い、ケアや介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	残存機能の低下を防ぎ、重度化するまえに訪問リハビリを活用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でずっと利用していた美容室に訪問してもらい地域資源を活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の通院を希望なさる方には継続して受診できる様に協力し、受診時の状況、処方薬をきちんと把握し、ご利用者様の状態の情報提供を行っています。	3か所の協力医療機関の訪問診療を利用者全員が月2回受診している。その内1か所は内科と精神科、他の2か所は内科の受診ができる。いずれの協力医も24時間オンコール対応をしてくれる。眼科や整形外科等の専門の受診は、家族対応として、受診結果は家族から聞き取っている。訪問看護師が週1回来所し、痰の吸引や浣腸などを行い、利用者の健康管理をしている。日常の口腔ケアは職員が担っているが、訪問歯科は、利用者とは個別契約を交わし、歯科医が必要な治療に訪れている。訪問マッサージを受ける方もいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と訪問看護師の信頼関係が出来ており、普段の生活の中での小さな変化や気づきを伝えて迅速な対応、指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合は入院先の主治医と連携を取り、時には直接お会いして退院後の生活が安心して送れるように、指導、助言をいただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に関する施設の方針をお話しし段階を経て、ご家族、医師、看護師で話し合いをし、同意が得られた時は看取り介護を行える様にしています。	入居時に、終末期の対応や看取り介護における事業所の方針を説明している。新型コロナ禍では、緊急搬送の際にエクモをつけるか、否かの件を問われるため、「延命治療についてどうしますか」とあらかじめ家族に聞いている。利用者の重度化が進み、医師が終末期と判断した時点で、再度家族に看取り対応の意思確認をして、同意を得て「看取り介護」の同意書を取り交わしている。今年度、4名の方の看取りを行った。看取り後はケアの振り返りとともに、利用者に話をしてお別れをしてもらっている。家族から感謝やねぎらいの言葉がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生への対応はミーティングで一からの対応を常に説明し、スタッフが全員できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2024、2月、地震、火災避難訓練を実施し、備蓄の確認を行い、新に利用者様がすぐに使えるように防災頭巾を購入した。	今年度は、令和5年3月と令和6年2月に小規模多機能型居宅介護支援事業所と合同で夜間想定避難訓練を実施している。次年度の5月ごろには、夜勤専従者の訓練を実施する予定にしている。BCPは、法人が策定をしており、次年度から避難訓練で取り入れる予定にしている。備蓄は、リストを作成して、敷地内の倉庫に職員分を含めた2事業所分の水、缶詰、五目御飯等を備えている。	非常災害時に階下の小規模多機能型居宅介護事業所のサービスを利用している方々の受け入れの確認や対応策などを検討されることを期待します。また備蓄品の棚卸を兼ねた点検や、家具や電化製品、棚の上に置いてある物などの減災対策、磯子区のハザードマップの確認を望みます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保	ご利用者様それぞれのプライバシー、人格を尊重し寄り添う心で声掛けを行い、入浴や排泄の際は羞恥心に配慮したケアに努めている。	職員は、利用者を人生の先輩として尊重し、常に尊厳やプライバシーに配慮した対応を心掛けている。職員が利用者の居室に入室する際は、必ず許可を得て入室したり、トイレ誘導の声掛けは、周囲に聞こえないように小声で対応している。管理者は、職員が急いでケア対応をする中で、利用者の肌が見える等、配慮に欠ける点が見受けられた際には、都度指導している。その際は、職員の気持ちを慮り、職員の良い所を伝えながら指導するように努めている。利用者の呼称は、基本は名字にさん付けとしているが、本人の希望の呼び名に対応している。個人情報保護の観点から、パソコンや個人情報を含む書類はパスワードや施錠管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の好みを把握し、それぞれが楽しく過ごせる様に、レクリエーション、外出支援を行い、役割分担を持つ事によって張合いのある暮らしが出来るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の気持ちに寄り添い、その思いや希望を受け止め、ご自身が決定して頂く。自身の思いを言葉にできない場合はスタッフが日常の言動から、くみ取り決定している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には自身で選んだ好みのものを選んで頂いている。整髪、髭剃り等は常に、清潔。() 整容を心がけている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様からリクエストなどを参考に栄養面、バランスのとれた季節に合わせた食事を提供し、盛り付け、片付けは一緒に行っている。かんたんな調理も時々行っている。	毎日の食事は、階下の小規模多機能型居宅介護事業所の厨房で、調理専任の職員が献立から食材購入、調理までを担当している。開設から「医食同源」を運営方針の基本にして、食の楽しみを通して利用者の健康な身体作りを支援している。主菜、副菜は1階の厨房で調理しているが、ご飯や汁物は各ユニットの職員が作り、調理の好きな利用者は、できる事を手伝っている。お節料理は、近隣にある系列の事業所の分を含め、階下の厨房で全て手作りしている。普段の食事は旬の食材を使い、季節に応じた食事を提供して利用者に喜ばれている。時には利用者のリクエストがあった料理やおやつ作りを一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量を必ず記録に残し、食が進まない方には好きなものを食事時間以外に召し上げて頂いたり、水分摂取が少ない方には好みの飲み物を勧めた上で、栄養・水分確保が不足する場合は医師、看護師に相談します。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、おひとりずつに合わせた口腔ケアを行い、必要な方は、訪問歯科の往診を依頼し、治療や助言をいただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターン、習慣を職員が把握し、タイミングを見計らって誘導をし、トイレでの排泄を第一に考え、清潔に過ごしていただくように支援をしています。	布パンツを使用して自立でトイレで排泄できる方が4名いる。その他の方は個々の状況に応じてリハビリパンツを使用したり、リハビリパンツにパッドを併用している。長時間便座に座ることが習慣になっている方は、日夜とも居室のポータブルトイレを使用している。また転倒の懸念のある方は、夜間だけポータブルトイレを使用している。そのほかの方は夜間は睡眠を優先しているが、パッドを交換したり、起きて来た時にトイレ誘導する事もある。夜間はおむつを使用している介護度が高い方も、日中は2名介助でトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、体操で体を動かし、10時のお茶の際は、ご本人の好みの飲み物を飲んでいただき、排泄表で排便の有無を確認し、下剤を処方されている方は服薬していただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則として週2回の入浴を行い、体調。身体状況に合わせて。シャワー入浴を取り入れたりし、入浴を楽しんでいただける様に工夫しています。	入浴は週2回を基本にして、午前を主に午後にかけて対応している。その日の気分で入浴を好まない方もいるが、再度声を掛けたりしながら入浴を勧めている。同性介助の希望への配慮や、男性利用者のハラスメント行為などには、臨機応変に対応している。浴槽の湯はかけ流しにし、足ふきマットもひとりずつ交換して、清潔を保持している。柚子湯や菖蒲湯で季節感を楽しんでもらったり、入浴剤を使うこともある。ヒートショック対策として、浴室内暖房機と脱衣場にはヒーターを備えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間、起床時間は特に決めず、ご利用者様のリズムに合わせて、必要な方には、昼寝も取り入れています。リネンは清潔なものを使用し、部屋の温度、湿度、照明にも気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬の目的、用法、用量を薬情報提供書で確認し、把握し、服薬時には、ご本人に確認していただき、職員二人体制で、服薬チェック表を用い、目視して服薬していただいています。薬の変更があった時は申し送り帳に記載し、職員全員が把握できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の好みを把握し、それぞれが楽しく過ごせる様に、レクリエーション、外出支援を行い、役割分担を持つ事によって張り合いのある暮らしが出来るようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルスの流行によりできていなかったが、少しずつ散歩、ドライブにはでかけている。	今年度は、お正月の初詣や花見は近隣に出かけた。また野毛山公園や山下公園などへ、月2回程ドライブレクを実施している。家族と墓参りや法事などに出かける方も、その際の家族との外食は今のところ許可はしていない。事業所の目前にあるスーパーマーケットに利用者と職員がマンツーマンで買い物に行き、利用者に好きなものを選んで、自分の財布から支払ってもらうなどの支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	直接、お金を使うことはほとんどないが、前のスーパーで好みのものを買に行くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の声が聞きたくなった時や、電話での連絡が必要な時は、いつでも利用できる様にしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な共同空間で、ご利用者様が安心して居心地よく過ごせる様に工夫し、各部屋の掃除をスタッフと一緒に、季節に合わせた飾り等を含んで力を合わせて作り、食堂やリビングに飾っています。	フロアには、食堂から廊下をはさんでダイニングが配置され、利用者はそれぞれ好きな場所で過ごしている。フロアの壁には、利用者主体で制作をした四季折々のちぎり絵や貼り絵を飾り、季節感を演出している。訪問当日は、満開の桜の大きな貼り絵が飾ってあった。共有空間の清掃は、職員が行い、利用者はモップ掛けなどを手伝っている。空気清浄機、加湿器を設置し、温湿度管理や感染症対策を施している、併せて換気や手すり等のアルコール消毒を行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の好きな場所でご自身のペースで過ごしたり、時には皆さんと談話して楽しめるように環境を整え、職員が声掛けを行い、ご本人の希望に応じた場所を勧められる様に工夫しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご利用者様になじみの深いもの、使い慣れた家具、飾っておきたいもの等をご持参いただき、好みに合ったものの中で安心して過ごしていただける様にしています。	居室にはベッド、ベッドマット、エアコン、クローゼット、照明、防災カーテンが備えられている。利用者は、机や椅子などの家具や、テレビ、カレンダー、時計などの生活用品を持ち込んでいる。家族の写真や、自分で書いた般若心経の掛け軸を飾る方や、短歌の本を置き、自作の短歌を短冊や色紙に書いている方もいる。また、居室の机の上に入れ歯洗浄剤等をきちんと並べる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋のドアには見えやすい様にネームプレートを掛けトイレ、浴室等は分かりやすい様に表示して迷わず移動出来るようにしている。		

目標達成計画

事業所名

7歳-7歳未満の子どもの発達支援センター

作成日

令和6年6月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	7	利用者様ご家族の交流がコナコナ少なくなっている。	事業所でのイベントを増やしてご家族にも参加して頂く。 運営推進会議参加	ご利用者様の誕生日、食事作り（一緒に行う） 運営推進会議に参加して頂く	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。